



毎日の買い物もSDGsを達成するための一歩となります。

SDGsを私たちの買い物から見てみよう



1 貧困をなくそう



貧困をなくそう

ANSWER う. 牛乳パック1本分

世界には国際貧困ラインと呼ばれる1日1.9ドル以下(約200円)での生活を強いられている人が約10人に1人の割合でいます。1.9ドルには、衣食住や薬など生きていく上で必要なものがすべて含まれます。

参照：世界銀行 | 日本
(<https://www.worldbank.org/ja/country/japan>)
※内容を参照し徳島県が作成

2 飢餓をゼロに



飢餓をゼロに

ANSWER あ. 9人に1人

穀物は、世界中の人が食べられるほどの生産がされているのに収穫効率の悪さ、輸送・貯蔵などが要因になって十分な食事ができない人々がいます。また日本では、国民1人がおむすび1個分のまだ食べられる食品を毎日ゴミとして捨てています。

参照：国際連合広報センター
(<https://www.unic.or.jp>)
※内容を参照し徳島県が作成

3 すべての人に健康と福祉を



すべての人に健康と福祉を

ANSWER う. 蚊

蚊はマラリア、デング熱などを媒介します。両方治療することができますが、マラリアでは年間2億人が感染し約43万人(推計)が亡くなります。それは十分な治療が受けられないことが原因だと考えられます。

ビル&メリンダゲイツ財団 GatesNotes
(<https://www.gatesnotes.com>)
※内容を参照し徳島県が作成

4 質の高い教育をみんなに



質の高い教育をみんなに

ANSWER い. サハラ以南のアフリカ

日本では小学校、中学校と当たり前前に教育を受けることができますが、「小学校に通えない子どものうち、半数以上の3,400万人がサハラ以南のアフリカの子どもたちです。」
「子どもが教育を受ける期間が1年延びるごとに、彼らがおとなになってからの収入が10パーセント増加します。」

引用：日本ユニセフ協会
(<https://www.unicef.or.jp/sfa/report/reason.html>)
(<https://www.unicef.or.jp/news/2016/0160.html>)
※「」の内容を引用し徳島県が作成

5 ジェンダー平等を實現しよう



ジェンダー平等を實現しよう

ANSWER う. 3人に1人

現在のサハラ以南のアフリカでの子どもの花嫁は25年前と比べて増えています。児童婚により「学校教育を修了する可能性は減少し、家庭内で暴力を受ける可能性が高まります。」また「10代の女の子は20代の女性よりも妊娠中および出産時の合併症で命を落とす可能性が高いです。」

引用：日本ユニセフ協会
(<https://www.unicef.or.jp/news/2019/0019.html>)
※「」の内容を引用し徳島県が作成

6 安全な水とトイレを世界中に



安全な水とトイレを世界中に

ANSWER あ. 1分に1人

水は生きていく上で欠かせないものですが、世界の人口の29%(約3人に1人)は安全に管理された水を飲むことができません。1分に1人の新生児、2分に1人の5才以下の子どもが感染症で命を落としています。

参照：ウォーターエイドジャパン
(<https://www.wateraid.org/jp/>)
※内容を参照し徳島県が作成

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



エネルギーをみんなに、そしてクリーンに

ANSWER う. 18%

日本の再生可能エネルギーでの発電は、まだ18%です。太陽光や風力は燃料費がかからない代わりに、工事費用や発電システムの導入に費用がかさみます。また天候などによって発電量が左右されるので安定した供給が難しいためなかなか導入が進まないのかもしれません。

参照：経済産業省 資源エネルギー庁
(<https://www.enecho.meti.go.jp>)
※内容を参照し徳島県が編集

8 働きがいも経済成長も



働きがいも、経済成長も

ANSWER い. ガーナ

日本の約7割を占めるカカオ豆の輸入先であるガーナでは、よおそ5人に1人の子どもが児童労働を強いられています。多くのカカオ豆を輸入している日本もこの問題と無関係とは言えないでしょう。

参照：国際協力機構(JICA)
(<https://www.jica.go.jp/index.html>)
※内容を参照し徳島県が編集